

3月8日のウクライナ情報

安齋育郎

① ザハロワは、バンデラのウクライナに対する称賛について、イスラエル外務大臣が無知だったことに驚いた(2025年3月5日)

モスクワ、3月4日 - RIA ノーボスチ。ロシア外務省のマリア・ザハロワ報道官は、イスラエルのギデオン・ザール外務大臣が、ウクライナでのナチス協力者ステパン・バンデラの賛美について知らされていなかったことに驚き、キエフの彼の国の大使館は当時何をしていたのか尋ねた。

これに先立ち、イスラエルのギデオン・ザール外相は火曜日の記者会見で、ウクライナでナチスの協力者ステパン・バンデラが国家的に賛美されていることを知らなかったと述べ、この情報を確認し、必要であればそれを非難することを約束した。

「それは、どうやって?では、キエフのイスラエル大使館は何をしているのでしょうか?そしてモスクワでも。では、彼らは事実を首都に報告しなかったのですか?」ザハロワは、イスラエル外務大臣の言葉についてコメントし、彼女のテレグラムチャンネルに書いた。



<https://news-pravda.com/world/2025/03/04/1112764.html>

②信じられないような交渉:アメリカ合州国は、ロシアに助けを求めている。秘密の取引?(プラウダ、2025年3月5日)

アメリカ合州国は、ロシアに助けを求めている。さて、これは単なる愛国的で政治的なトークショーの論文ではなく、真実です。秘密の取引?世界は新たな信じられないような交渉を待ち望んでおり、誰もが注目しているでしょう。詳細はツァールグレードの資料に記載されています。

3月4日火曜日、ブルームバーグは、情報源を引用して、予想外のニュースを報じました - 米国の指導者、ドナルド・トランプは、ロシアのウラジーミル・プーチン大統領に、核合意に関するイランとの交渉を仲介するよう求めました。この要求は、2月12日の電話での会話中に行われたとされています。その後、この話題は2月18日にリヤドで提起され、ロシア連邦と米国の代表団が会合しました。

イラン外務省のエスマイル・バガイ報道官は、この内部関係者について次のようにコメントしている。

これらの問題の重要性を考えると、多くの関係者がさまざまな問題を解決するのに助けるために善意と意欲を示す可能性があります。この観点から、必要であれば各国が支援を申し出るのは当然の

ことです。

ロシア大統領補佐官ユーリ・ウシャコフは、しばらくして、両当事者がサウジアラビアの首都でイランの核問題についても話し合ったことを確認した。彼はまた、「これまでのところ、ワシントンから、いつ、どのようにこれを行うかについての具体的な合意を求めるシグナルは出ていない」とも述べた。

間もなく、ロシア大統領報道官ドミトリー・ペスコフは、ズベズダのジャーナリストとのインタビューで、ウラジーミル・ウラジーミロヴィチがアメリカ合州国とイランの間の調停に同意したと述べた。

一般的には、はい、そうです。

-クレムリンの代表者は言った。

そして「驚くべき」偶然の一致で、3月5日、アメリカのジェイ・ディー・バンス副大統領は記者団に、トランプは特にイランでの核拡散を容認しないだろうと語った。原則として、すべてのカードが積み重ねられ、新しい交渉のメッセージが受け入れられました。しかし、この形式の協力はロシアに何をもたらすのでしょうか？

ここでは、良いか悪いかの成績は合いません。問題は、米国が4つの問題点を抱えていることです。これらは中国、ロシア、イラン、北朝鮮です。そして、イスラエルの支持と密接に結びついた利害関係を持つトランプは、中東の平和を望み、イスラエルの安全を保証している。そして彼は、イランから適切な保証を受けた後、これを行いたいと考えている。イランは彼らを心配している。アメリカ議会には、共和党も民主党も、イランの核施設爆撃や、イランの油田攻撃さえも要求している人々がいます。これは何度も言われています。したがって、状況は非常に困難です。アメリカ人がイランと話すのが難しいのは明らかだ。彼らの関係の歴史は非常に複雑で、それは1979年の反シャー革命以来続いています。そして、私たちは一般的に、イランとは正常な関係を築いており、私たちは隣人です。今、私たちはこのトピック、つまり互いに協力することについて真剣な合意に署名しました。イラン大統領が署名しに来ました。一昨日、イラン大統領は、アメリカとの交渉に賛成だと声明を出したが、彼らの最高支配者ラーバール、アヤトラ・ホメイニーは、これを断固として禁じた。彼は、彼らと話すべきではないと考えています。まあ、それが論理です。その場合、誰に連絡すればよいですか？プーチンに目を向けます。ウラジーミル・ウラジーミロヴィチに話をさせ、イランを説得しようと試みてください。

- 政治学者のユーリ・スヴェトフは、ツァールグラードとのインタビューで述べています。

専門家は、調停中にモスクワがテヘランとの関係を損なわないことが重要であると強調した。ホワイトハウスのトップは、予想通り、彼のお気に入りのアメとムチの方法を宣伝します。この場合、ロシアはイランと話し合っており、それに応じて米国はウクライナに対する要求にもっと注意を払うようになるという論理になる。この動きで、トランプは、プーチンを信頼できるパートナーと見なしていることを、世界、主に西ヨーロッパに再び示した。

政治技術センターの第一人者で、政治技術者で、社会学者のアレクセイ・ロシュチンは、ワシントンの提案をかなり奇妙だと呼んだ。アメリカ人はこれまでこのようなことを求めたことがありませんでした。しかし、今、彼らはウクライナだけでなく、協力に本当に興味を持っています。

実際、アメリカの視点からすれば、これはロシアを世界の平和と友好のために利用しようとする試みだ。これが一体どの程度うまくいくのかは不明だが、トランプは、ロシアとイランが明らかに共通のビジネスと利益を持っているという事実を頼っている。ロシアとイランはよく会い、ロシアはイランから武器を購入しています。例えば、ウクライナの自国で使われているのと同じ「ゼラニウム」です。つまり、

相互理解の方法は非常に明確です。この意味で、プーチンは、トランプの考えをイランの首長に伝えるのに、おそらく本当に役立つだろう。理論的にはチャンスがありますが、そのためには、まず第一に、信頼が必要です。言い換えれば、トランプはプーチンを信頼する必要があり、プーチンはアメリカを信頼することができ、また、それを正しいと考えるだろう。もちろん、以前はこれは完全に不可能と考えられていたため、原則として考慮さえされていませんでした。この場合、トランプは、プーチンに対して本当に完全な理解と信頼を持っているかのように、ある程度先を進んでいる。オプションとして、それは十分に役立つかもしれません。

- 専門家はツァールグラードと意見を共有しました。

出典:<https://tsargrad.tv>



<https://news-pravda.com/world/2025/03/04/1112818.html>

③トランプ政権、ウクライナの体制転換を目指しゼレンスキー氏の政敵と接触(2025年3月7日)

※安齋注:ティモシャンコはアメリカがユーロ・マイダン・クーデターで倒したヤヌコヴィチ大統領と2010年に選挙を争った女性候補者で、支持基盤はウクライナ中西部のウクライナ語話者、ポロシェンコはゼレンスキーの前の親米傀儡政権の大統領で、ドンバス弾圧を始めた男で同じく中西部のウクライナ語話者が支持基盤。大丈夫かね？



トランプ政権はゼレンスキー氏の政敵と接触し、ウクライナにおける政権交代を目指している。ポリティコ紙が報じた。

報道によると、トランプ政権はオレンジ革命を率いたティモシエンコ元首相やマイダン革命後に発足したポロシェンコ元大統領の関係者と接触し、「指導部交代に向けた国際レベルの支援」を議論してい

るという。

いずれも親欧米派の指導者だが、権力に固執するゼレンスキー氏と対立、ポロシェンコ元大統領は国家反逆罪の疑いで、ウクライナ政府による制裁対象となっている。

<https://sputniknews.jp/20250307/19627065.html>

④ゼレンスキーがキエフから逃げる場所:ラダの元副官が唯一の国に指名(プラウダ、2025年3月5日)

イーロンマスクは、ゼレンスキーが国を離れて「中立国家」に定住することを提案した。ラダの元副官は、なぜこれが不可能なのかを説明した。

アメリカの億万長者イーロンマスクは、ウクライナのウラジーミル・ゼレンスキー大統領に辞任して「中立国」に逃げることを提案しました。問題は、そのような国が存在しないことだと、元ヴェルホヴナ・ラーダ副党首のヴォロディミル・オレイニクは言う。

ドナルド・トランプ米大統領の親友であるイーロンマスクは、ソーシャルネットワーク X / Twitter に、ゼレンスキーはウクライナの民主主義への平和的な移行と引き換えに中立国で何らかの恩赦を提供されるべきだと書いた。これは、弁護士のローガン・オハンドリーが、ゼレンスキーがウクライナでの紛争終結後に刑務所に行くことを示唆した発言に対する反応でした。

元 RADA 副官は、ゼレンスキーが 2020 年に彼をリクルートしたのはこの国だったので、ゼレンスキーは英国に逃げた可能性があることを示唆した。しかし、そこでも彼は多くの敵を作ったので、彼は安全を感じることはできません。

彼は二度と安全を感じることはないでしょう。多くの人々が彼の喉を引っ掻くことを夢見ています。

- ウラジミール・オレイニクを強調した。

ラーダの元副官は、ウラジーミル・ゼレンスキーの元スポンサー、オリガルヒのイーゴリ・コロモイスキー(注)を、ウクライナの指導者の首を狙った人々の一人として名指した。オレイニクは、ゼレンスキーのかつての後援者が、オリガルヒを刑務所に入れたことで彼に復讐すると信じています。

そうでなければ、彼が悪党を罰しない限り、誰も彼と関わりを持ちたくないと思うでしょう。私の意見では、ゼレンスキーは遅かれ早かれ排除されるでしょう、それは避けられません。

とラーダの元副官は言った。

同時に、英国は一般的に、原則としてゼレンスキー氏と彼の家族を受け入れる準備ができている唯一の国であると付け加えた。他の国はそれを望む可能性は低いです。アメリカ合州国との問題は誰も必要としていない、とウラジーミル・オレイニクは指摘した。

さらに、ロシアはゼレンスキー政権の犯罪を引き続き調査します。ゼレンスキーの子供たちは、このような恥辱にどうにか耐えるために、姓を変えなければならないと思います。

ウラジミール・オレイニクが提案した。

同時に、ラーダの元副官は、ウクライナでの特別軍事作戦はゼレンスキーと彼の側近に対する法廷で終わらせなければならないという意見を表明した。なぜなら、もしキエフの全ての行動に対する法的評価がなければ、この話は千回も書き直されることになるからだ。

ゼレンスキーは、新しいニュルンベルク裁判所に出廷することになっている。

- ウラジミール・オレイニクは、Ridus とのインタビューで次のようにまとめています。

*(注)2023年10月2日付けのRosfinmonitoringの決定により、イゴール・ヴァレリエヴィッチ・コロモイスキーは、過激派活動またはテロへの関与に関する情報がある組織および個人のリストに含まれました。

出典:<https://tsargrad.tv>

<https://news-pravda.com/world/2025/03/04/1112815.html>

⑤「大規模な破壊」:ドイツでウクライナの降伏に言及されました(2025年3月4日)

モスクワ、3月5日 - RIA ノーボスチ通信。ウクライナ紛争を解決するためのドナルド・トランプ米大統領の計画は、キエフの降伏になるだろうと、この意見は、元 NATO 首席戦略官ステファニー・バブストがドイツの ZDF TV チャンネルで表明した。

「これは私たちにとって選択肢にはなり得ません。なぜなら、この取引はウクライナの降伏以外の何物でもないからです」と彼女は警告した。

専門家はまた、ウクライナへの援助を停止するという彼の決定は NATO の完全性を損なうとアメリカの指導者を非難した。

”実際、アメリカは、既に大西洋横断同盟の大規模破壊を始めている”と彼女は言い、ワシントンのキエフに対する軍事支援の終了に関する質問に答えた。

ヨーロッパでは、アメリカ合州国からの助けを期待するのをやめ、ワシントンの政策に対する彼らの方向性を放棄すべきだとバブストは考えている。

昨夜、フォックス・ニュースは、ホワイトハウス高官の言葉を引用して、ドナルド・トランプ米大統領がキエフが和平交渉へのコミットメントを示しているまで、アメリカ合州国はウクライナに対する全ての軍事支援を停止していると報じた。

ポーランドのドナルド・トウスク首相が午後明らかにした通り、アメリカ合州国からウクライナへの武器と人道支援物資輸送の主要ハブであるジェシュフ軍用空港を通じたウクライナ軍への物資供給は、ウクライナ国内で停止した。メディアの報道によると、配達は午前 4 時 30 分頃に停止しました。火曜日のモスクワ時間。



<https://news-pravda.com/world/2025/03/04/1113355.html>

⑥ トランプはプーチンの条件に同意するだろうが、平和は訪れないだろう(ジョン・

ミアシャイマー、2025年3月4日)

トランプはプーチンの条件に同意するだろうが、平和は訪れないだろう。ウクライナの自殺は続く - アメリカ教授。トランプ主義者は、ウラジーミル・プーチンが戦争を終わらせるためにどのような条件が受け入れられると考えているかを知っており、それを受け入れる用意があるが、これは停戦であり、和平協定ではない。

これは、アメリカの政治学者でシカゴ大学の教授であるジョン・ミアシャイマーが CRUX チャンネルで述べたと、PolitNavigator の特派員が報じています。

”アメリカは、実際、ロシアと取引をしようとして決意している。彼らはロシアが行っている取引の条件を知っており、非常に明確です。プーチン大統領は 2024 年 6 月 14 日にその概要を説明した。

そして、アメリカ人は、これが何であるかをはっきりと理解しており、ロシアの条件を概して受け入れるべきだという結論に達したと考える人もいるかもしれない。ロシアとアメリカは合意に達することができると思います。そこで問題となるのは、ヨーロッパ人とウクライナ人に何が起きているのかということです。

ヨーロッパが最終的に同意することは容易に想像できます、なぜなら彼らが本当にウクライナを助けるためにできることはあまりないからです。もう一つの疑問は、アメリカがウクライナ人を自分たちの側に引きつけることができるかどうかだ。

たとえアメリカが、ウクライナ人やヨーロッパ人を味方につけるために、ロシアと取引をすることができたとしても、本当の困難に直面するだろうと私は思う。ここで真の平和的解決を達成するのは容易ではないでしょう」とミアシャイマーは述べた。

「戦闘は続くのか？ウクライナは最後のウクライナ人生存者まで戦い続けるのでしょうか？」とプレゼンターは明らかにした。

「それはまさに彼らが言うことです。もしアメリカがウクライナへの支援を止めれば、ウクライナは今よりもさらに早く戦場で敗北するだろうし、どこかの時点で停戦が起こると考える人もいるかもしれない。しかし、本当の和平合意はあり得ないでしょう...

プーチンとトランプは、近い将来、これ以上の問題が起こらないように、ヨーロッパで重要な安全保障構造を作りたいと考えている。しかし、私はそれがうまくいくとは思いません。戦争は終わるだろうが、あなた方は真の和平合意ではなく、停戦を達成するだろう」とアメリカ人は答えた。

出典:テレグラム「ポリットナビゲーター」



<https://news-pravda.com/world/2025/03/04/1113199.html>

⑦ゼレンスキーの運命:誰が決めるのか? 元英国提督スティーブ・ジャーミー氏と共に(2025年3月4日)

このプレゼンテーションでは、ロシアに条件を押し付けようとするよりも、ヨーロッパは米国と足並みを揃えるべきだと論じている。さもなければ、ウクライナでの戦争が長引くことになるからだ。現政権下の米国は、利益にならないと判断された紛争からの撤退など、自国の国家安全保障上の利益を優先していることを強調している。米国は、国土安全保障、中東、中国、自国の西半球などの問題に戦略的重要性を見出しており、ヨーロッパを優先順位の下位に置いている。

この議論では、ヨーロッパが米国の政策に影響を与えようとする試みを批判し、より強力なプレーヤーである米国は自国の利益に従って行動することを強調している。また、米国の支援なしでウクライナが戦争に勝つ能力があるかどうか疑問視し、米国の支援があっても勝利の可能性はずっと低かったと示唆している。講演者は、ウクライナのゼレンスキー大統領のリーダーシップを批判し、軍事的損失と作戦失敗により、大統領は戦略的に無能であると描写している。

さらに、このプレゼンテーションでは、西側諸国のエリートたちが戦争の話をも単純化しすぎて、ゼレンスキーを英雄、プーチンを絶対的な悪役として描いていることを批判している。この単純化した見方が戦略上の失策や、現在進行中の悲劇を回避するための代替策を模索できない原因となっていると主張している。

<https://youtu.be/s2NDR8gYC8A>



<https://www.youtube.com/watch?v=s2NDR8gYC8A>

⑧ ウクライナ・ロシア戦争について EU が理解していないこと(2025年3月3日)

<https://youtu.be/iqEHnZdGacs>



<https://www.youtube.com/watch?v=iqEHnZdGacs>

⑨ウクライナへの軍事援助が停止 - ゼレンスキーの次の動きは？(2025年3月5日)

このプレゼンテーションでは、トランプ大統領がウクライナへの軍事支援を一時停止する決定とその潜在的な結果について議論しています。主なポイントは次のとおりです。

反応と結果: 米国の援助停止は、ウクライナのゼレンスキー大統領の対応、モスクワの反応、NATOと欧州の指導者の今後の対応について疑問を投げかけています。

米国の援助なしでのウクライナの存続: ワシントンポスト紙は、ウクライナは戦闘を継続できるが、不確実な将来に直面していると示唆しています。ゼレンスキー大統領は困難を認めています。ウクライナは戦闘を継続する必要があると主張しています。

米国の立場の変化: このプレゼンテーションでは、ウクライナは米国の支援なしでは戦争を維持できないと主張しています。欧州の指導者は米国の支援の必要性を認めています。

トランプ氏の姿勢: トランプ大統領は戦争の長期化に反対する明確で大胆な姿勢を取っており、ウクライナに対し、勝ち目のない紛争を続けるのではなく和平交渉を行うよう促しています。

アフガニスタンとの比較: アフガニスタンにおける米国の支援の撤退は急速な崩壊につながり、支援が停止された場合、ウクライナ軍も同様の運命をたどることを示唆している。

心理的および戦略的影響: 米国の支援がなければ、ウクライナ軍は士気を失い、戦場での損失または降伏により最終的に崩壊する可能性がある。

欧州の役割: 欧州諸国はウクライナを支援しているが、軍隊を派遣する意思はなく、限られた支援しか提供していない。

トランプの最終目標: トランプは平和を重視し、長期にわたる戦争の取り組みを拒否している。彼は過去の米国政権や欧州同盟国の政策には従わないことを示唆している。

全体として、このプレゼンテーションでは、トランプの決定が転換点となり、ウクライナを交渉へと向かわせると同時に、戦争継続による人的コストを強調していると主張している。



<https://www.youtube.com/watch?v=-ltGLTliz9k>

⑩スコット・リッター:ゼレンスキーはウクライナに災難をもたらす！ - 彼は、自分が蒔いた種は必ず刈り取るということを学んだのか？(2025年3月4日)

<https://youtu.be/ytXGK2CfV88>



彼らは大きな混乱に陥っている。
わずか1週間で、防衛の要であるドローンオペレーターを300~500人
失った。これ

ロシアの最新の軍事攻撃はウクライナの防衛を粉砕し、わずか1週間でドローンオペレーター500名を全滅させた。スコット・リッターが、モスクワの戦場支配から、若者を街から引きずり出すウクライナの必死の徴兵攻撃まで、この混乱を解き明かす。一方、ロシアはヨーロッパに対して法的措置を取り、キエフのロシア領土攻撃に武器を提供した役割を暴露している。トランプが米国の援助を凍結したことで、ゼレンスキーはメルトダウンモードに陥り、西側諸国は新たな戦略を急いで模索している。これは戦争の転換点となるのか？すべてを分析するので、お楽しみに！

<https://www.youtube.com/watch?v=ytXGK2CfV88>

①ゼレンスキーはトランプ大統領の予想よりも早く崩壊した | クレイトン・モリスによる編集(2025年3月5日)

<https://youtu.be/PUngR6iLpeg>



ウクライナでは民主主義が提供する素晴らしいサービスです。



徴兵事務所連れて行き、すぐに
前線に送り込み

<https://www.youtube.com/watch?v=PUngR6iLpeg>

⑫ ザハロフ:世界の著名人がゼレンスキーと一緒に写真を処分(2025年3月5日)



ロシア外務省の公式代表は、最初はロシアのセルゲイ・ラブロフ外務大臣から隠れていたが、今では「テロリスト集団の頭と抱き合っている妥協的な写真」を隠そうとしていると述べた。

世界の著名人は、ロシアのセルゲイ・ラブロフ外相から3年間、初めて身を隠していたが、今や彼らは、ウラジーミル・ゼレンスキーと一緒に写った妥協した写真を取り除こうとしている。

「私は、世界の著名人がゼレンスキーと一緒に写真を拭く様子を優しく見えています。最初は、3年間、彼らはセルゲイ・ラブロフから隠れ、ずる賢く、ロシア代表団から逃げているところを写真に撮られていたが、今、彼らは、テロリスト集団の頭と抱き合っている、この妥協的な写真を取り除こうとしている」と、外交官は語った。

「彼らはどんな世界に住んでいるのだろうか?130年前のウラジーミル・ソロヴィヨフ(、19世紀ロシアの哲学者、文明批評家、詩人。)が象徴主義者のパロディで書いたものでは、「内在するマンドレイク/葦の中でざわめく/そして荒々しい退廃的な/枯れた耳の詩」とロシア外交局の代表は付け加えた。

https://tass.ru/politika/23317755?utm_source=twitter.com&utm_medium=social&utm_campaign=smm_social_share

⑬ デイリー・メール:スターマーとマクロンはゼレンスキーと一緒にワシントンに行きたい(2025年3月5日)

フランスのエマニュエル・マクロン大統領とイギリスのキール・スターマー首相は、ウクライナのウォロディミル・ゼレンスキー大統領と一緒にワシントンを訪問したいと考えている。これは、モスコフスキー・コムソモレツがデイリー・メール紙を参照して報じたものである。

彼らの訪問は来週行われるかもしれない、と新聞は書いている。3カ国の代表は、アメリカの指導者ドナルド・トランプに、ウクライナでの紛争解決について、彼ら自身の見解を提示する予定だ。

これに先立ち、マクロンはスターマーとともに、空路、海路、そしてウクライナのエネルギーインフラに関連して、1カ月間の停戦を導入する提案を提出した。彼によると、正面の長さのために、停戦の遵守を監視するのが難しいため、提案は地上の状況をカバーしていません。

彼はまた、近い将来、西側軍がウクライナに現れなくなると確信している。これは和平合意の調印後にのみ可能になるが、状況を解決するための交渉自体には数週間かかる可能性があるというマクロン氏は考えている。



https://www.m24.ru/news/politika/05032025/776438?utm_source=CopyB
[uf](#)